

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471900785	事業の開始年月日	平成22年4月1日	
		指定年月日	平成20年4月1日	
法人名	社会福祉法人湘南福祉協会			
事業所名	グループホーム なごみ			
所在地	(239-0807) 神奈川県横須賀市根岸町4-10-10			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成23年7月1日	評価結果 市町村受理日	平成23年8月31日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気を大事にし、目配り・気配り・心配りをモットーに日々のケアを行っています。ADLの状態を考慮しながら一人ひとりにあったサービスが提供できるよう努力するとともに、利用者様の笑顔を絶やさないう職員も常に笑顔で接しています。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成23年8月1日	評価機関 評価決定日	平成23年8月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】 ◇法人の湘南病院を協力医療機関とし、内科医が月2回訪問診療をしている。医療連携体制加算を取得して、看護師が毎週来訪し、また24時間連絡体制を確保して健康管理にあたっているため、利用者・家族に安心感を与えている。 ◇一昨年の事業所移転当初から町内会に加入して、利用者が地域の行事や防災訓練にも職員と一緒に参加して、住民との交流が図れるように配慮している。また、事業所の避難訓練でも、近隣の方が利用者を誘導したり見守りに協力していただけるなど、地域に密着して利用者の安全、安心を図っている。 ◇管理者と職員は会議で意見を出し合い、得られた結論には納得して協力し合う風土ができています。</p> <p>【事業所が工夫している点】 ◇新築の建屋には、手すりが最初段階の片側しかなかったため、利用者の身体状況を見ながら両側に取り付け、トイレにも増設して転倒防止に努めている。 ◇利用者中心の支援に心がけ、季節の装飾品の貼り絵や切り絵などの制作も利用者と職員が助け合って作成している。 ◇天気の良い日は、なるべく近隣を散歩するようにしているが、夏場は熱中症の心配もあるので、その日の日差し、気温、風向きなどを考慮して、夕涼みや庭の草花の水やり、室内での体操などに切替えて対応している。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	なごみ
ユニット名	-

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

なごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解した上で管理者、職員同士が申し送りを通して実践できるよう努力している。	・「利用者の尊厳を守り、介護と医療の協調を図り、地域福祉を推進する」との理念を事務室に掲示している。 ・職員には入職時に理念を説明し、職員会議では介護と医療のかかわり方を話し合っ、実践に反映している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に近所の方に挨拶をしたり、町内の行事に進んで参加し顔なじみになっている。	・町内会に加入し、盆踊りやおみこし見物、地区防災訓練などに利用者も参加し、地域の人々と交流している。 ・ハンドベル、ハーモニカ、紙芝居などのボランティアを受け入れている。 ・毎年、中学生が福祉体験で来訪し、利用者と一緒に昔の遊びをして楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の行事に進んで参加させてもらい働きかけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会、家族代表、地域包括、市職員に出席を呼びかけ日常生活の報告を行い、さまざまな意見をいただいている	・町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、市職員、家族が参加して2か月ごとに開催している。 ・利用者が、徘徊したときなどの緊急時、近隣の協力を得やすいよう「名札をつけては」との提言を得て実施している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	常に連絡をとり指導をお願いしている。	・市の担当者とは、書類作成時の相談、空室状況の連絡の他、運営推進会議の調整などで日頃から、電話やメールで緊密に連携している。 ・市主催の研修には、その都度職員が参加するようにしている。	

なごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全面を考慮したうえで施錠を行っている部分もあるが、常に職員同士話し合い、疑問等職員会議で話し合い検討、指導している。	・マニュアルを基に身体拘束をしないケアを職員会議で周知徹底している。 ・日中、玄関は施錠せず、1階に職員が居ないときのみ安全上、中扉を閉めている。居室には鍵を付けていない。 ・立ち上がりの際に必要な方のみ、ベッド柵を1か所取り付けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	個々に認識の違いはあるが、日々のケアで職員が注意しあい、虐待を見逃さないよう防止及び言葉遣いにも注意している。研修にも積極的に参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、会議等で意見交換、情報の共有を行なうよう努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容、介護保険等利用者ご家族様には理解しにくい点が多いが、時間を掛けて説明をし、都度、質問にも丁寧に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族の意見・要望をいつでも気軽に話していただけるよう職員一同心がけている。また、家族会を通し、意見を共有していただいている。	・来訪時に、利用者の様子を話して家族の意見や要望を聞き出している。 ・また、家族の意見や要望を出しやすいようにご意見箱を置いている。 ・5月に家族会を立ち上げ、会議で出た意見や要望・提案を検討して運営に反映している。	

なごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間の連絡ノートや日々の勤務や会議の中で職員の提案に耳を傾け話し合いの場を設けている。	・日々のミーティングや毎月の職員会議、管理者との話し合い、職員間の連絡ノートで職員の意見や提案を聞き、業務に反映している。 ・利用者の身体状況の変化に対応し、職員の提案を受けて階段とトイレに手すりを増設した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	母体である湘南病院と密に連絡を取り合い報告している。各種研修の参加を呼びかけるとともに職場の環境整備に努めるようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修情報を掲示したり、口頭で伝えたりと職員全員が順番に研修に行けるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会に参加したり、同法人内の施設と意見交換をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時はもちろん、入所されてからも傾聴する姿勢を大切にし、時間に制限を設けずに多くのことを話していただけるよう努めている。		

なごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望にお応えできるよう努力しているが、出来ないことはわかりやすく説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族了承のもとサービスの提供を行なうとともにグループホームという事業体制を生かし柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様のできる範囲で家事を協働するなど共同生活を支える立場から入居者様と関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現状を家族から理解得られず課題となっているが、都度話し合いを実施し意見を述べてもらっている。町内会等のイベントに家族も参加してもらい入居者様とのふれあいの場としている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り住み慣れた生活環境に近づけるよう努力している。知人の面会なども家族了承のもとおこなっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・友人、 ・知人の来訪には、事前連絡を得て家族の了解をもらい、来訪時には、湯茶をだすなど関係の継続を図っている。 ・毎月23日を「文」の日とし、職員が手伝って家族や友人にハガキを出して、関係の継続を支援している。 	

なごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スキンシップを出来るだけ多く行い、不安にならないように支援している。共同作業を日々の生活に取り入れ入居者様同士が支えあえる関係を保持できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了しても、時々連絡をし必要に応じて家族の相談にのっている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	否定することなく受け入れる気持ちでサービスを提供できるよう心がけている。	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で利用者同士の会話から、思いや意向を拾い上げるようにしている。 ・一人ひとりに、寄り添いスキンシップを大切にして、話を聴きだし、難聴の方には筆談で確認している。 ・職員間では、ミーティング時また連絡ノートで結果を共有している。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に家族、担当ケアマネ等より話を伺い、利用者さまにあったケアが出来るよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ちょっとした変化も見逃さないよう配慮している。		

なごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からの意見はもちろん、職員同士でも意見を出し合い、各方面に対してアセスメントを行なっている。	・介護計画は、家族の意見を聞き、かかりつけ医の受診ノートを参考にして、毎月の職員会議で話し合っ作成している。 ・見直しは、モニタリングして通常3～6か月毎に行い、変化があればその都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は全ての関係者に公開している。また、職員同士の情報共有は確認作業として押印を義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況変化の度に柔軟に出来る限り支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会行事の積極的参加、ボランティアの誘致等生活にメリハリをつけられるよう支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診や他科に受診の際には生活状況や身体の状態など詳しく情報提供書に記載している。	・家族の希望で、2名が入居前のかかりつけ医に受診しているが、他の方は協力医の湘南病院にて受診している。 ・協力内科医が月2回、看護師が毎週、歯科医は治療を要する場合は毎週、訪問診療している。 ・職員は、利用者の医療情報を受診ノートに記録して共有している。	

なごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診ノート利用及び職員会議で情報交換を行い利用者様の健康に留意している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には電話連絡及び面会に伺い家族から現状報告をきいている。退院に向けてはDr、看護師、ケアマネと連携をとり退院後の生活の注意事項等細かく伺うようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に付いては受け賜っていないが、重度化した場合はDrより指示を仰いでいる。往診時に家族にDrより説明あり。	・医療連携体制加算を取得して、24時間連絡体制を確保し、日常的な健康管理を行っている。重度化した場合の対応指針を定め、緊急時は看護師が医師に連絡して、判断を仰いでいる。 ・現段階では看取りは実施しない方針を家族に説明して了解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変及び事故に関して例を挙げ討議し、マニュアルを作成している。応急処置の研修等職員が進んで参加出来る環境をととのえている。看護師からも応急処置等都度指示を仰いでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の食料や水を備蓄しているが、今回の大地震で不足しているものに気づいたこともある。火災だけでなく、震災に関しても訓練が必要ということもあり、改めて全職員が身に付けられる様今後の課題である。	・避難訓練は消防署の協力を得て、年2回、日勤と夜勤帯で行っている。 ・近隣住民が、利用者を近くの公園までの誘導を手伝ってくれている。 ・今回の震災で廊下の非常灯が3時間で消え、また、食料備蓄は3日分あるが、懐中電灯が不足しているのに気づいて、対策を検討している。	避難訓練は、これまで主として火災時を想定して行ってきましたが、今後は、特に地震や、水害の観点からの防災と避難訓練の実施が望まれます。

なごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に言葉遣いには注意し、個々の生活暦を尊重し理解したうえでコミュニケーションをとっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は利用者を年長者として敬い、言葉かけに注意している。 ・不適切な場面があれば、その都度職員間で注意し合っている。 ・職員は接遇やプライバシー尊重の外部研修に参加し、報告書を職員会議で発表して、全職員で共有している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	より細かく個別対応に心がけると共に日常生活の中、自己決定が出来るように常に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームで一番心すべきことだと思う。その人らしく生活できるよう支援できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔にいちばん気をつけている。自己決定が出来るよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを一緒に考えたり、意見を取り入れながら作っている。出来る範囲で片付けなど行ってもらっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者はテーブル拭き、配膳、お茶入れなど可能な範囲で職員と一緒にやっている。 ・献立は、利用者の好みを取り入れ、誕生会では、出前のお寿司を取ったり、行事食ではひな祭りにちらし寿司、夏の土用にはうなぎを出すなど、昔の風習を大事にしている。 	

なごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材を出来るだけ多く使うような献立を心がけている。摂取量、水分量は記録に残し、職員間で共有している。摂取量に不足がある場合は、個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中に残査物が残っている場合は介助している。定期的に歯科医師と連携を取り様子観察している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間を決めて誘導したり、自力排泄を心がけている。	・排泄チェック表に基づき、利用者の排泄リズムを把握して対応している。 ・2時間置き、および食前、食後に声をかけて誘導し、トイレで排泄できるように支援している。この結果、日中のオムツの使用者は皆無である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操、食物繊維の食材を多く取り入れ、また、乳製品を活用し便秘予防に取り組んでいる。それでも駄目な場合は酸化マグネシウム処方して頂きコントロールしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の入浴を楽しんでもらえるよう工夫している。体調に合わせて対応している。	・入浴は利用者の体調を確認して、週3回午後に入らせていただいているが、夏場に汗をかいたときや失禁時などは、その都度対応している。 ・入浴を好まない方には、時間を置いて声をかけ、タイミングをみて誘導している。	

なごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体力・体調に合わせて対応している。日中は体を動かしてもらいなど活動してもらい気持ちよく眠れるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関してはいちばん注意しなければいけないと考えている。きちんと飲み込んだのを確認している。薬が変更になった場合は申し送りにて徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や得意分野を考慮し、本人の自己決定のもと、出来る範囲内で積極的に活動していけるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の体調に合わせて散歩、外出を支援している。家族同伴で外出できるようにご家族も協力していただいている。	・天気が良い日は、車いすの方も一緒に全員で、近くの公園に出かけている。 ・年2回の遠足には、菖蒲園やみかん狩りに家族同伴で出かけている。 ・夏場は、夕涼みや庭の草花への水やり、室内での体操に切替えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所に管理しているが、本人や家族の要望に応じて所持を認めている。		

なごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があった時は都度対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	制作活動の作品や写真など、掲示し居心地よく過ごしていただけるよう支援している。	・リビングの壁には 利用者と職員が折り紙で作った枇杷の実と葉などを飾り、季節感を取り入れている。 ・ほとんどの利用者は、リビングで、職員と会話したり、テレビを見たり、作品を制作して、それぞれが居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いスペースを設け、ゆったりとした空間が保たれるよう配慮している。場所を決めず自由に座れるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた使い慣れたものを置くよう家族に協力していただいている。自宅で生活しているのと変わらず支援できるようこころがけている。	・居室には、事業所が用意したベッド、エアコン、カーテンが備え付けられている以外、利用者が使いなれた筆筒や衣類、家族の写真、時計を持ち込み、居心地良く過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	臨機応変に対応できるよう支援している。目印をつけたり、一目で分かるよう工夫している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

グループホームなごみ

作成日

平成23年8月24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策に関する非難訓練の実施について	地震や水害を想定した防災・非難訓練を行うようにします。	今までの避難訓練は火災を想定して行ってきましたが、今後は、地震や水害の観点から防災・避難訓練を行います。	3か月
2					
3					
4					
5					